

シマアオジ

Yellow-breasted bunting
Emberiza aureola

スズメ目ホオジロ科

保護指定：国内希少野生動植物種(2017年～)

環境省レッドリスト：絶滅危惧 I A類

生息環境：湿原などの草原 体長：15cm

食性：植物の種子や昆虫類

オス



上面が茶色く、腹は黄色
顔が黒く、胸に茶色い横線
があり、脇に白い線が入る。

メス



上面が薄茶色で、腹は黄色
頭は灰白色で焦げ茶色の筋
があり脇に白い線が入る。

幼鳥



上面に薄茶色と焦げ茶色の
斑模様がある。腹は薄黄色。

シマアオジ観察ガイド

シマアオジが好む場所

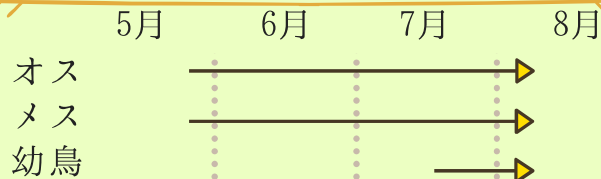


オスは5-6月によく湿原
の木の上や草の先端で
さえずります。メスが
姿を現すことはめった
にありません。

オスの鳴き声
(NPO法人
パートナー提供)→



シマアオジがいる季節



※ 近年は数の減少により観察が非常に難しくなっています。

サロベツ湿原センターで シマアオジ観察の際にお願いしたいこと

- ・木道から降りない
- ・シマアオジを追わない
- ・観察デッキや椅子に長時間滞在しない
- ・大きな声や音を出さない
- ・三脚を展望デッキ以外の場所に立てない

シマアオジは大変繊細な小鳥であり、繁殖時期は
特に人を警戒します。
数少ない個体を守るために、ご協力をお願いいたし
ます。

発行・お問い合わせ

・環境省稚内自然保護官事務所 ☎ 0162-33-1100
北海道稚内市末広5-6-1 稚内地方合同庁舎

・NPO法人
サロベツ・エコ・ネットワーク ☎ 0162-82-3232
北海道天塩郡豊富町字上サロベツ8662番地
サロベツ湿原センター内

サロベツ・エコ・ネットワーク
行先：廣瀬実穂子 「シマアオジ情報」
発行年月：2021年3月



絶滅から守るために



シマアオジの住処

ユーラシア北部で繁殖し、中国南部、インドシナ半島北部・インド亜大陸北部で越冬します。日本では現在サロベツのみで繁殖が確認されています。2020年では21つがい確認されました。

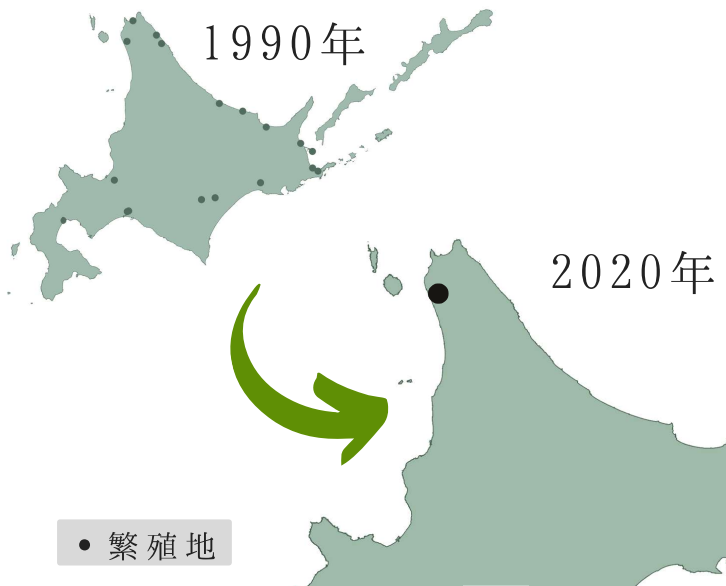
シマアオジの子育て

湿原の地上に巣を作り、4-5個の卵を産みます。
卵を温める期間：12日間程度
子育て期間：14日間程度



シマアオジを取り巻く現状

シマアオジは1980年代まで北海道各地の草原環境で普通に繁殖していました。しかし、1990年代以降に急速に減少し、2015年以降サロベツ湿原以外では見られなくなりました。



シマアオジへの脅威



エゾシカの増加

エゾシカの増加により、湿原内に獣道や泥浴場が増えることで湿原が裸地化し、営巣への影響が懸念されます。



湿原の乾燥化

サロベツ湿原周辺の排水路の整備により、湿原がササ原に変わることによって、繁殖に適した環境が減少しています。



国外での密猟

渡りの中継地や越冬地で、かすみ網により群れごと捕獲されることが、個体数減少の原因となっていると考えられています。

これらの脅威に対して、シマアオジを守るために、環境省は2017年にシマアオジを国内希少野生動物種として指定し、保護に乗り出しました。

また、民間でも調査や保全活動に取り組んでおり、官民一体となった保護活動を行っています。

環境省の取り組み



繁殖・生息状況調査

春に繁殖・生息状況調査を実施しています。モニタリングにより、シマアオジの現在の状況や、新たな繁殖地の確認に努めています。これらの調査は民間の団体でも取り組まれています。

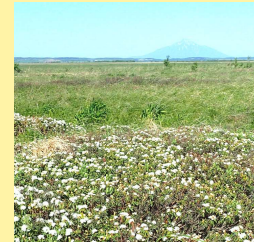


普及啓発

シマアオジのおかれた現状を広く皆さんに知っていただくために、調査や取組などについての報告会を開催しています。

2017年札幌

民間団体の取り組み



土地購入

シマアオジの繁殖地となり得る草地環境を保護することを目的にサロベツ湿原周辺の土地をナショナルトラスト運動などで購入しています。



国際的な取組

国際ワークショップをきっかけに、各国間の関係者が連携してシマアオジの国際保全・普及啓発活動を行っています。

2016年札幌

普及啓発

サロベツ湿原センターでは、シマアオジを身近に感じてもらうため、実物大の模型の展示やステッカー等のグッズの販売を実施しています。

